

なめがたをあるく

行方の仏教美術を探る 〜萬福寺の文化財〜



阿弥陀堂



阿弥陀如来立像及び両脇侍像



仁王門



熊岡明然さん

寺伝によれば、寿永2年（一一八三）平氏一門が西国に都落ちをした際、平重盛公の遺骨を奉じ、平貞能（さだよし）は東国に逃れ、各地を流浪後、現在の若海地区に僧侶（以典）として結んだ草庵が萬福寺の前身とされており、寛正5年（一四六四）に芹沢城主俊幹（としもと）が現在の芹沢地区に移築、萬福寺を開基しました。その後、元禄10年（一六九七）水戸徳川家の命により、現在の羽生地区（羽生小学校隣）に移築し、今日に至っております。

萬福寺には、茨城県指定文化財が複数あります。阿弥陀堂は、唐和様折衷形式の廟建築を加味した建物です。方三間寄棟造りの四手先萱葺（してさきかやぶき）で、念仏三昧を修める常行堂様式に造られています。中に安置されている阿弥陀如来立像は、像高98・8cm、木像、金泥塗り、切金（きりがね）、玉眼嵌入（ぎよくがんにかんにゅう）で、口をわずかに開き、歯が見える全国でも数少ない歯吹像です。また、仁王門は、天正6

年（一五七八）に現在の稲敷市、逢善寺で建立されたものが移築され、県内最古の八脚門形式で、細部に唐様式を認める室町時代末期の作柄を持つ貴重な建造物です。

今回、萬福寺住職の熊岡明然さんに、現在解体修理を行っている仁王像の公開時期や、文化財を保存していく上で苦労されている点などについて伺いました。

「専門家調査を依頼したところ、仁王像は享保8年（一七二三）の制作であることがわかりました。また、仏像体内に書きつけがあり、調査により新たな発見があるかもしれません。一般公開は、今年の秋以降を予定しています。県指定の文化財は、申請から修理までの期間が長いので、早く予算が確保されることを望みます。茅の葺き替えなどには、檀家の皆様にご協力をいただいております」

寺では、寺の成り立ちや文化財案内、縁日などの行事を紹介するため、ホームページを立ち上げる予定とのこと、完成を心待ちいたします。

ROOKIE

市内で頑張るフレッシュな人を紹介していきます！

堀米 さん
(小野商事)

私たちの会社では、ペット用の食品や日常品を各スーパーやホームセンターなどに卸しており、私は事務を担当しています。社会に出て間もないのでまだ未熟ですが、明るく過ごしやすい雰囲気のおかげで先輩方の親切な指導のもと、日々頑張っています。



編集後記

今号をもちまして、「なめがたをあるく」は最終回とさせていただきます。各地区へ取材にお伺いし、行方市が文化財の宝庫であることを再認識したとともに、文化活動に活躍されている方の情熱を感じました。取材にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

次号からは、「僕の学校私の学校」が始まります。市内各小中学校の運営方針など、児童生徒のコメントを交えて紹介していきます。(保) (友)